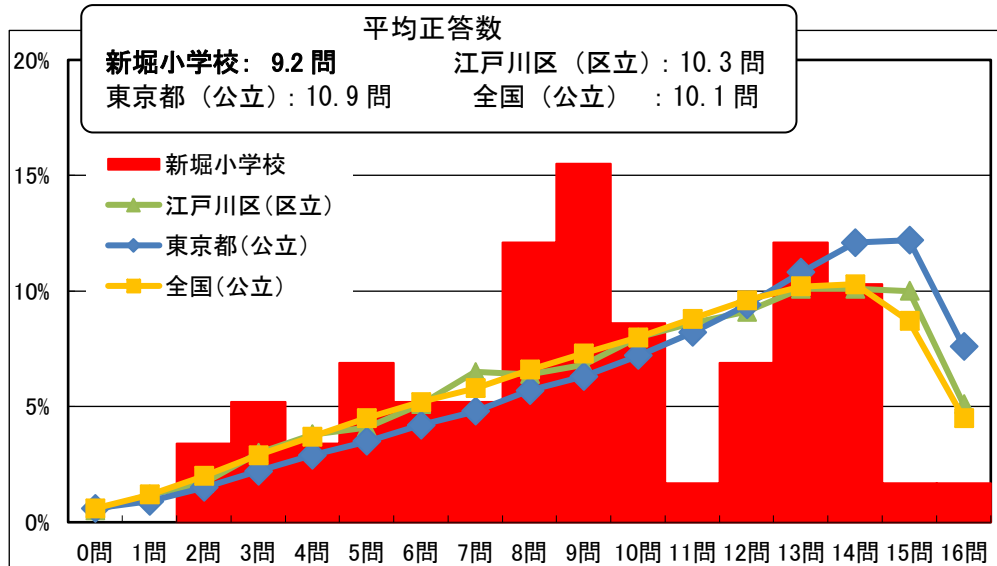


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 新堀小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

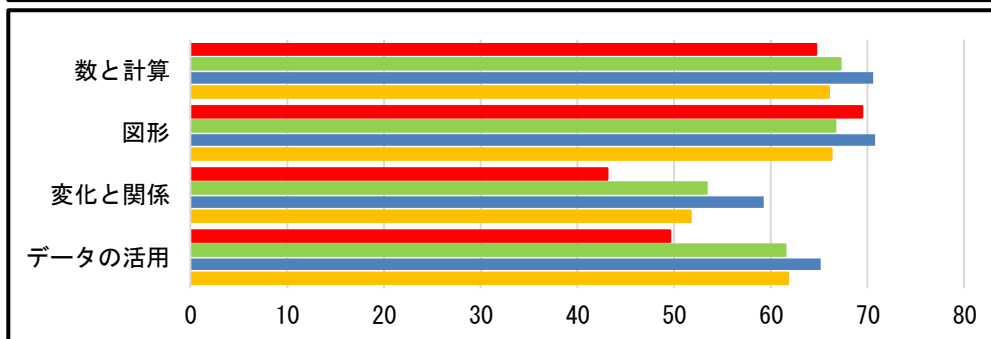
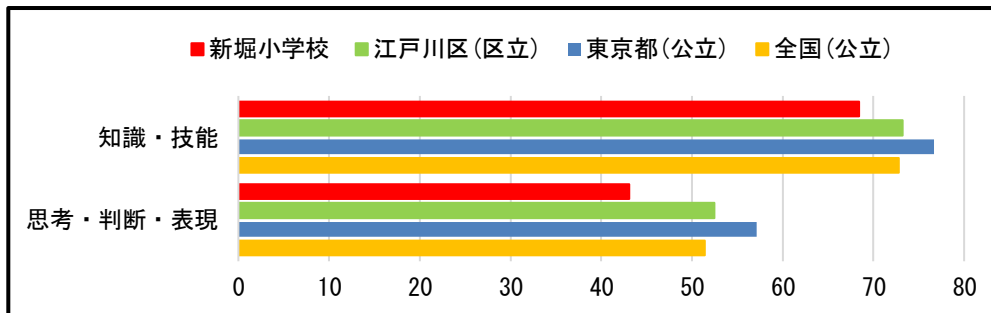
算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
新堀小学校	13.7	18.9	37.9	29.3
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

【平均正答率の差】

新堀小学校	57%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	-11ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

<分析>平均正答率 57%は、都より 11%低い。AB層約 32%は都より低い。「図形」の正答率が区より高い反面、「変化と関係」「データの活用」の正答率は 50%以下となっている。

<授業改善>基礎基本を繰り返して指導し、児童同士で説明し合い理解を深める学習を継続する。「データの活用」領域においては、データの特徴や傾向に着目して問題解決したり、考察したりする力などを養っていく。「変化と関係」領域においては、式の意味や線分図の見方を共有し、深めていくために、ペア学習や適用問題を多く取り入れるなどしていく。